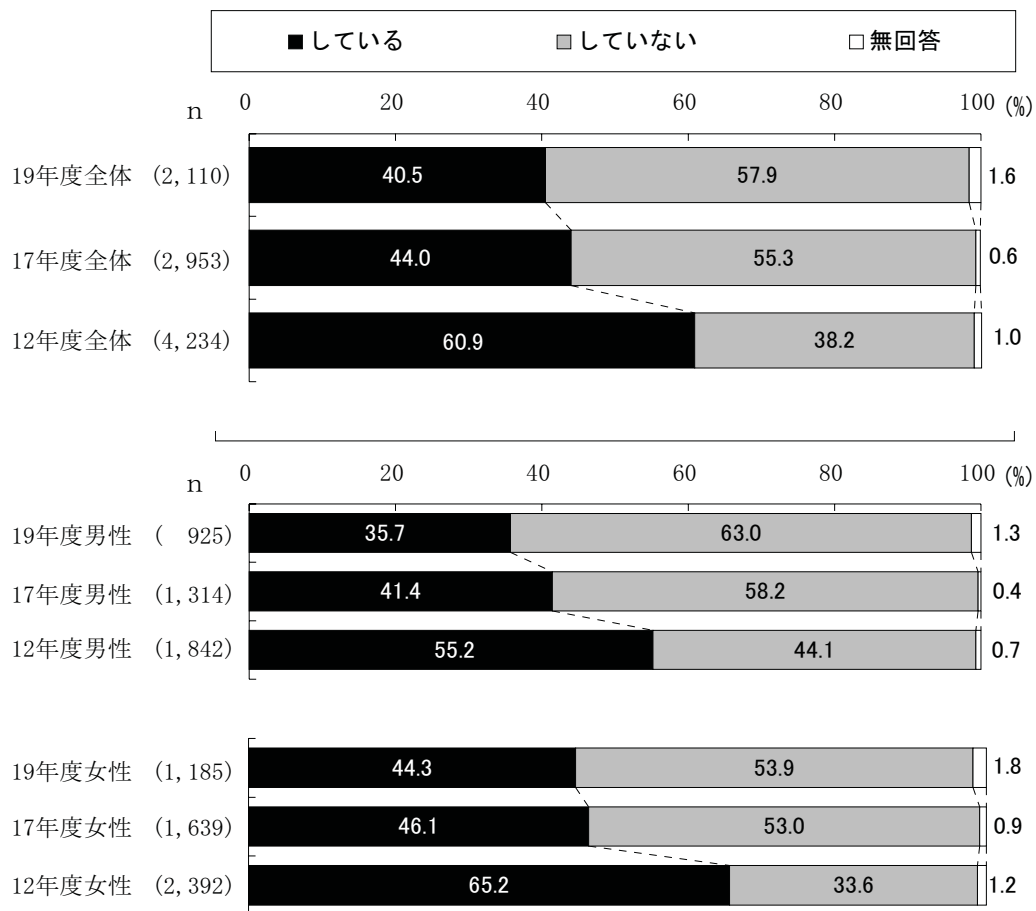
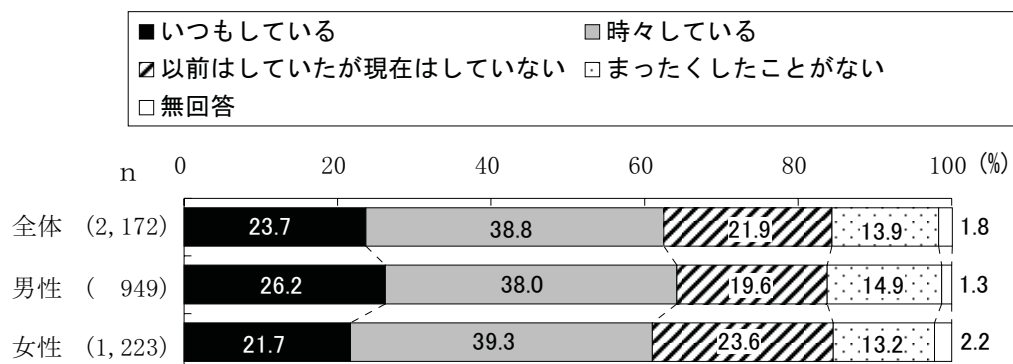


図表－57 体重管理のための食事量のコントロール(千葉県)



資料：平成 19 年度生活習慣に関するアンケート調査報告書(千葉県)

図表－58 日常的な運動への取り組みの状況(千葉県)



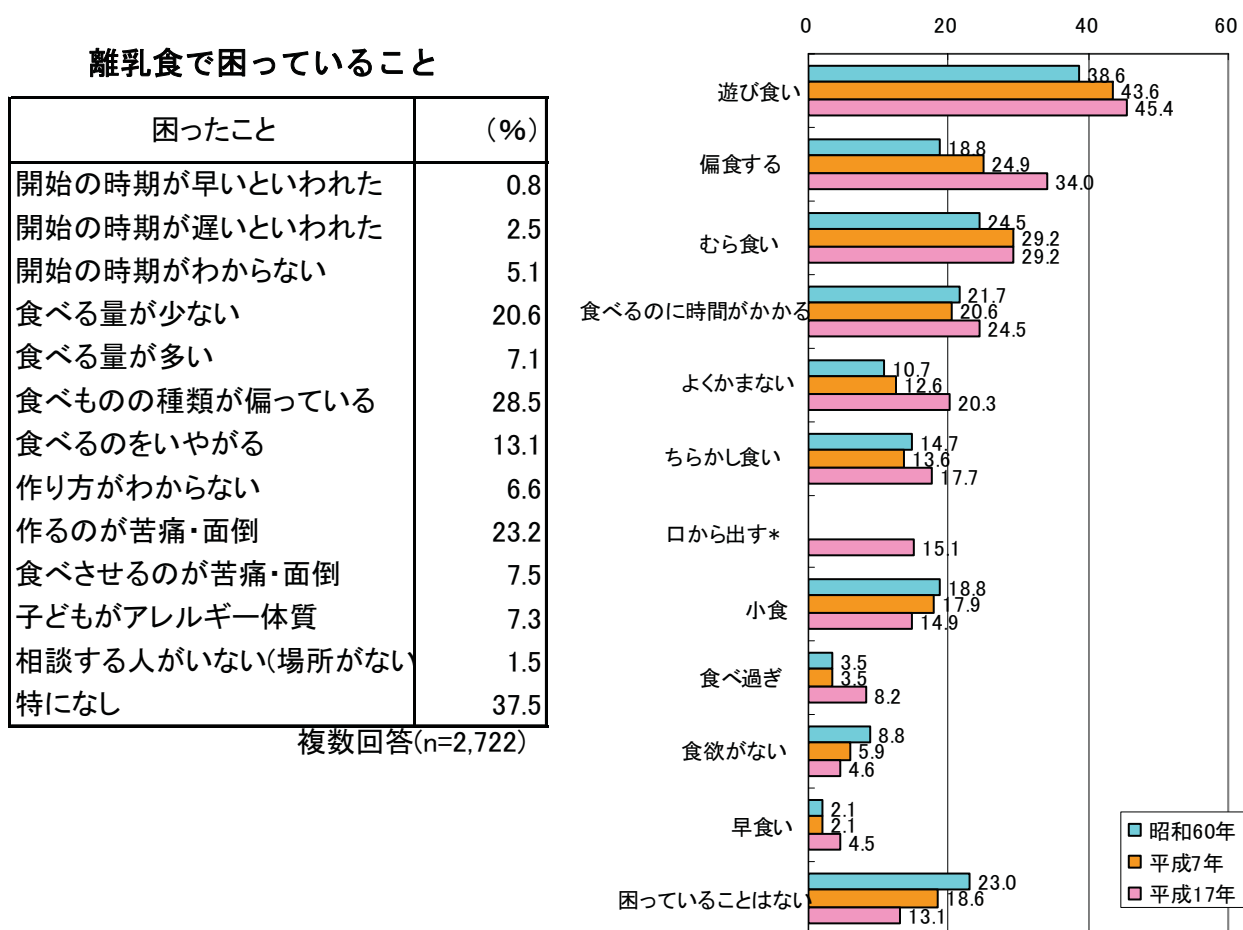
資料：平成 19 年度生活習慣に関するアンケート調査報告書(千葉県)

(4) 乳幼児の生活習慣

○4歳未満の子どもがいる世帯を対象とした調査では、離乳食で困っていることとして、4人に1人の割合で「食べものの種類が偏っている」、「作るのが苦痛・面倒」と回答しています。

○子ども（1歳以上）の食事では、10年前に比べ、「偏食する」、「よくかまない」と回答する人が増えています。また、「食事で困っていることはない」とする人が減っています。

図表－59 子どもの離乳食や食事で困っていること(全国) (%)



食事で困っていること(年次推移)

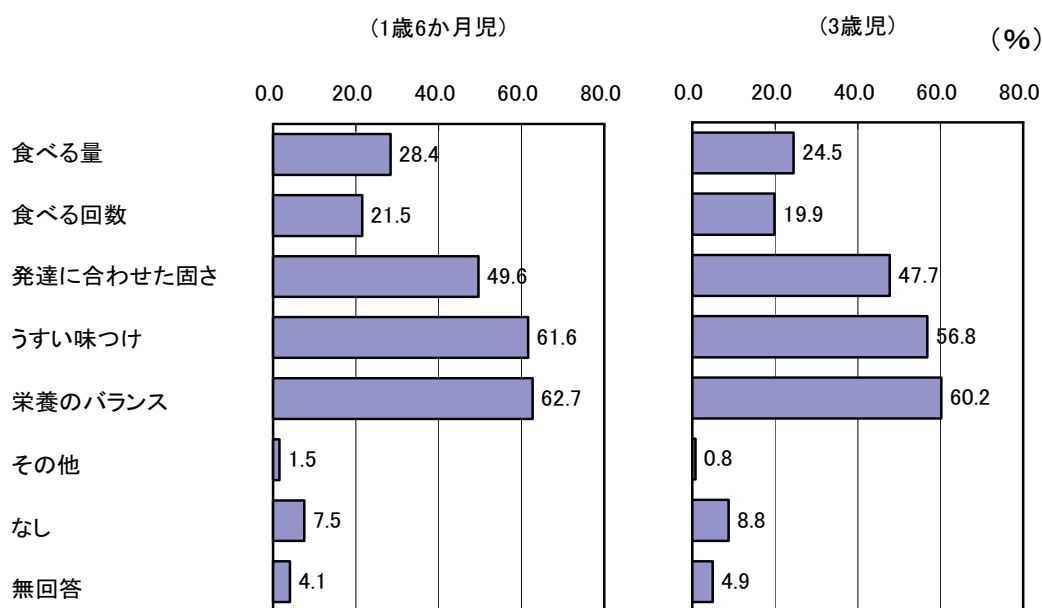
資料：平成17年度乳幼児栄養調査結果の概要(厚生労働省)

○離乳食での配慮事項で「栄養バランス」、「味つけ」に次いで「固さ」への配慮がみられます。

○食事の心配では、「むら食い」、「好き嫌い」が成長に従って増加しています。

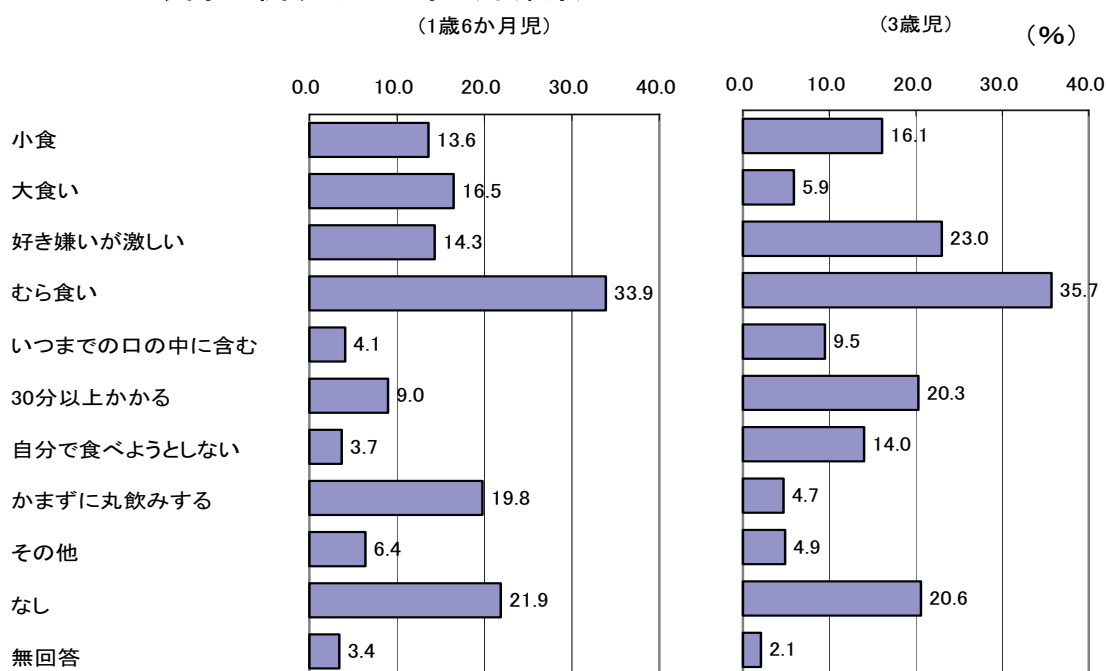
○歯に対する配慮として、およそ9割の親が「歯磨き」、「正しい食生活」に気を付けています。「甘味菓子・飲料の制限」についても8割を超えています。

図表-60 離乳食を与える際に気をつけたこと(千葉県)



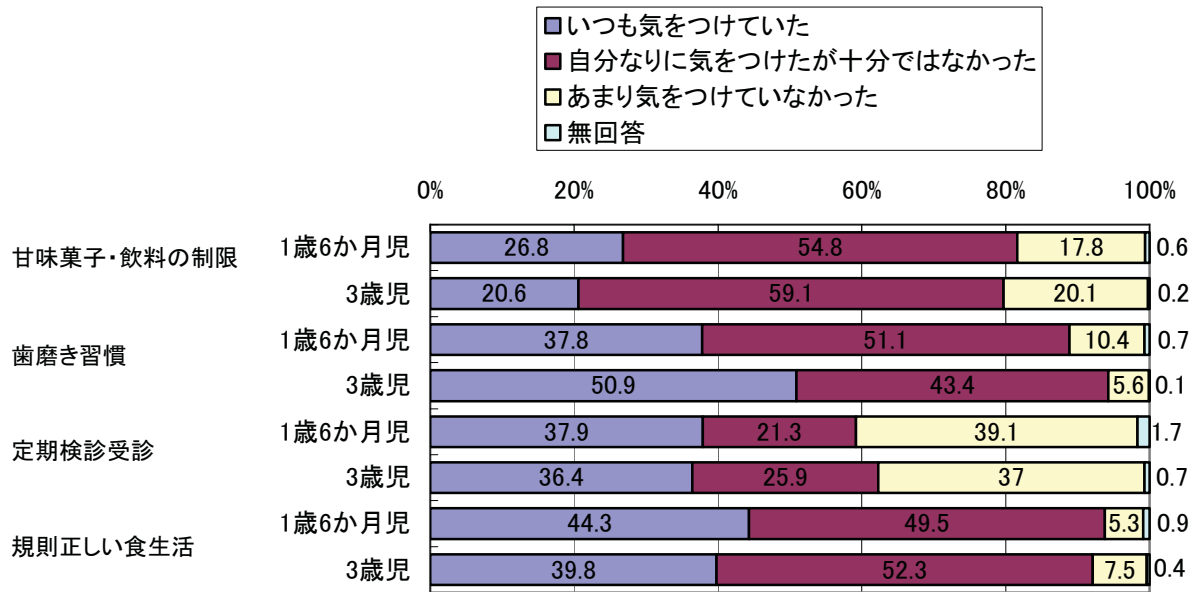
資料：平成17年度1歳6か月児及び3歳児歯科保健アンケート(千葉県)

図表-61 食事に関する心配事(千葉県)



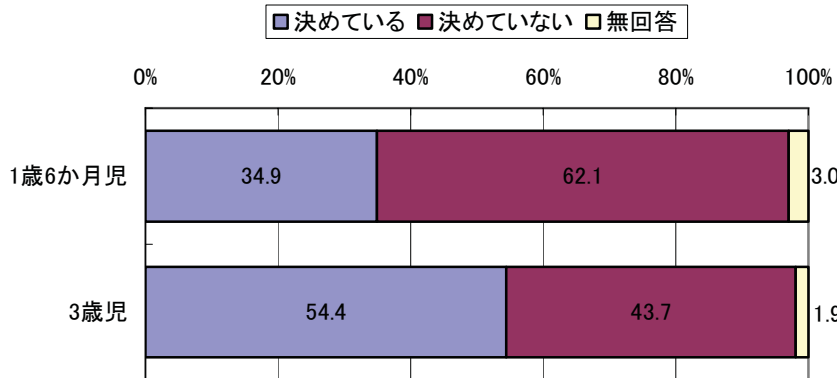
資料：平成17年度1歳6か月児及び3歳児歯科保健アンケート(千葉県)

図表-62 歯のために気をつけたこと（千葉県）



資料：平成17年度1歳6か月児及び3歳児歯科保健アンケート(千葉県)

図-63 かかりつけの歯科医について(千葉県)

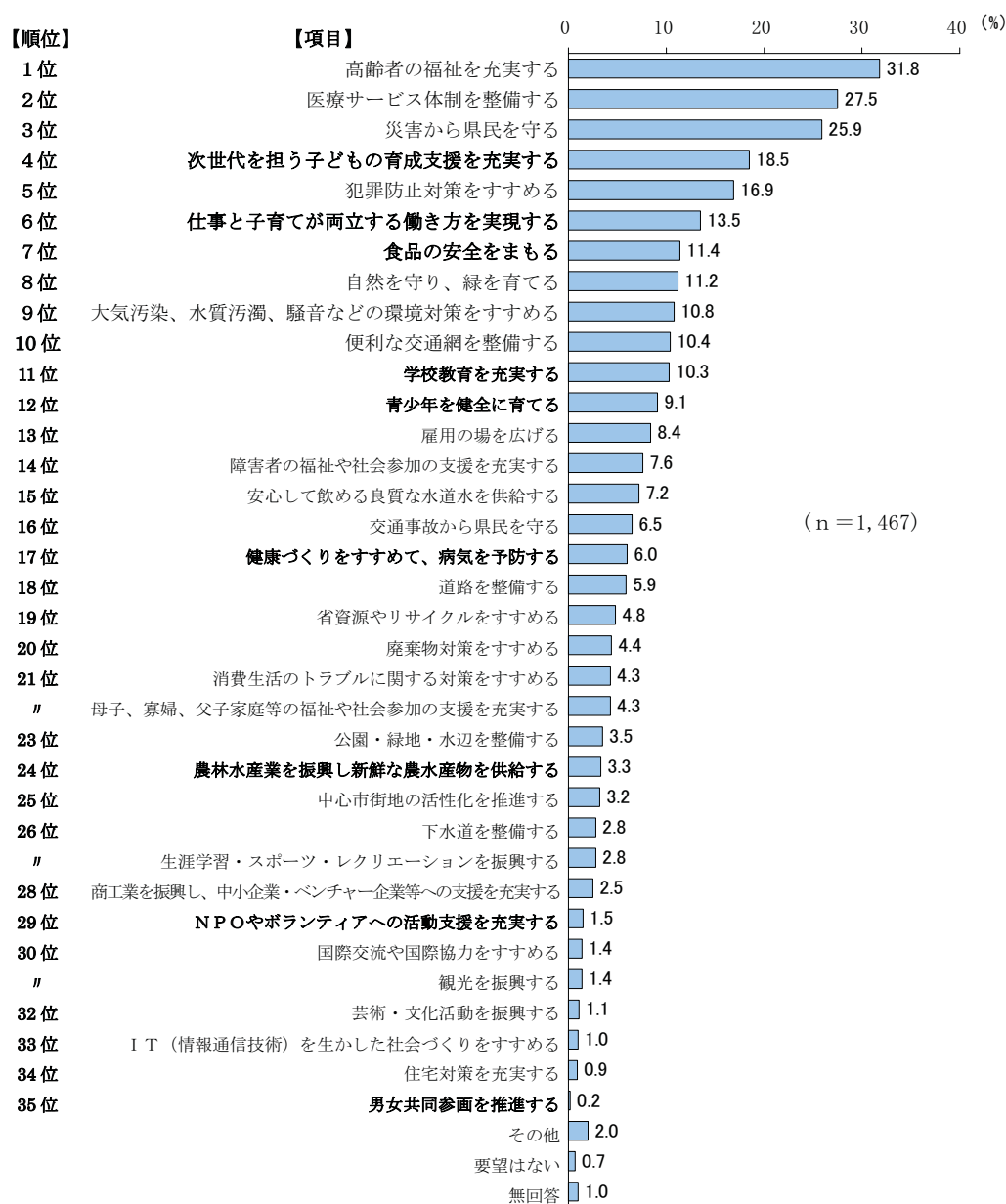


資料：平成17年度1歳6か月児及び3歳児歯科保健アンケート(千葉県)

6. 食の安全・安心への関心

- 県政に関する世論調査結果によると県政への要望事項では、「食品の安全をまもる」は、上位に位置し、食の安全・安心に高い関心を示しています。
- そのほか、「子どもの育成支援」、「仕事と子育ての両立の実現」、「学校教育の充実」が上位に位置しています。

図表—64 県政への要望(千葉県)

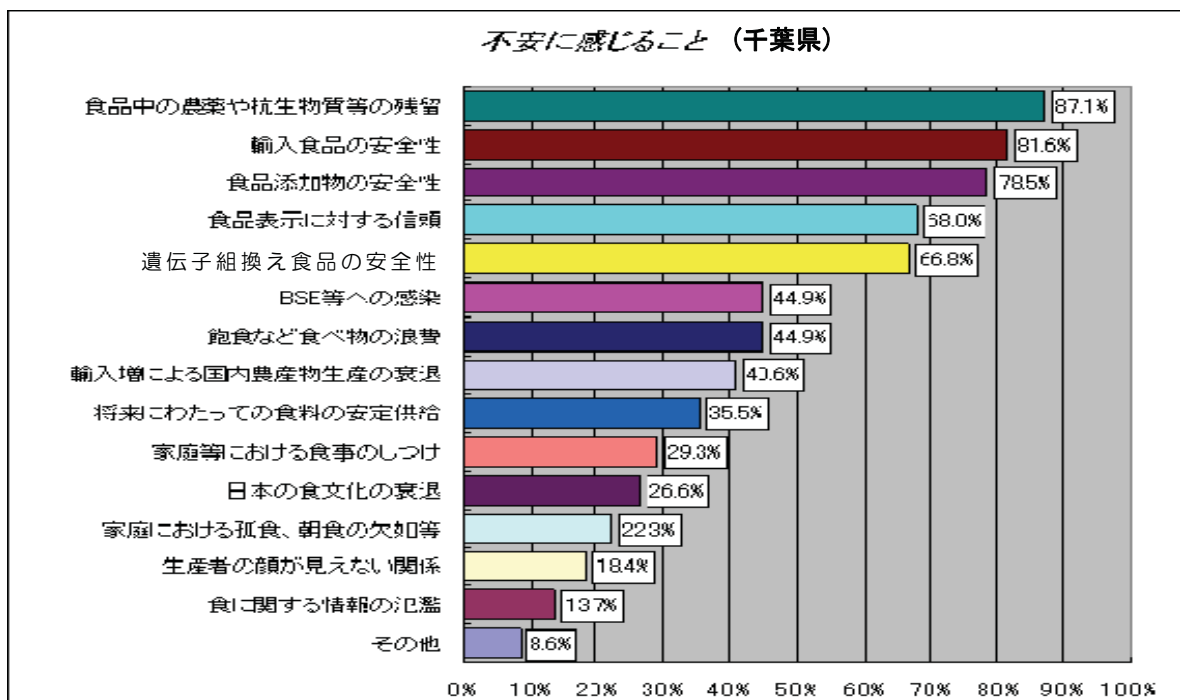
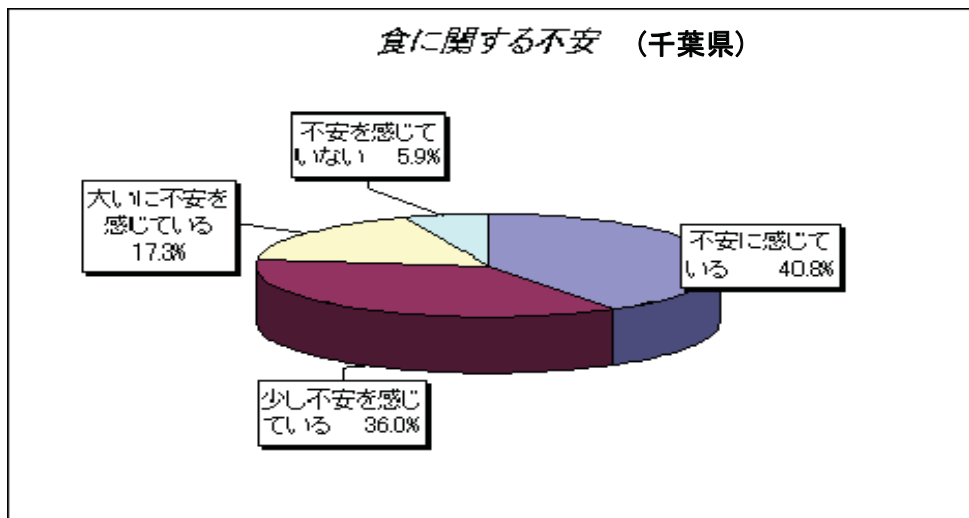


資料：第32回県政に関する世論調査(平成18年度：千葉県)

○食育に関する県政モニター調査結果では、食に関して不安に感じている人が9割を超えており、不安を感じる内容では、「農薬等の残留」、「輸入食品の安全性」が8割を超え、そのほか「食品添加物の安全性」、「食品表示に対する信頼」、「遺伝子組換え食品の安全性」が上位を占めています。

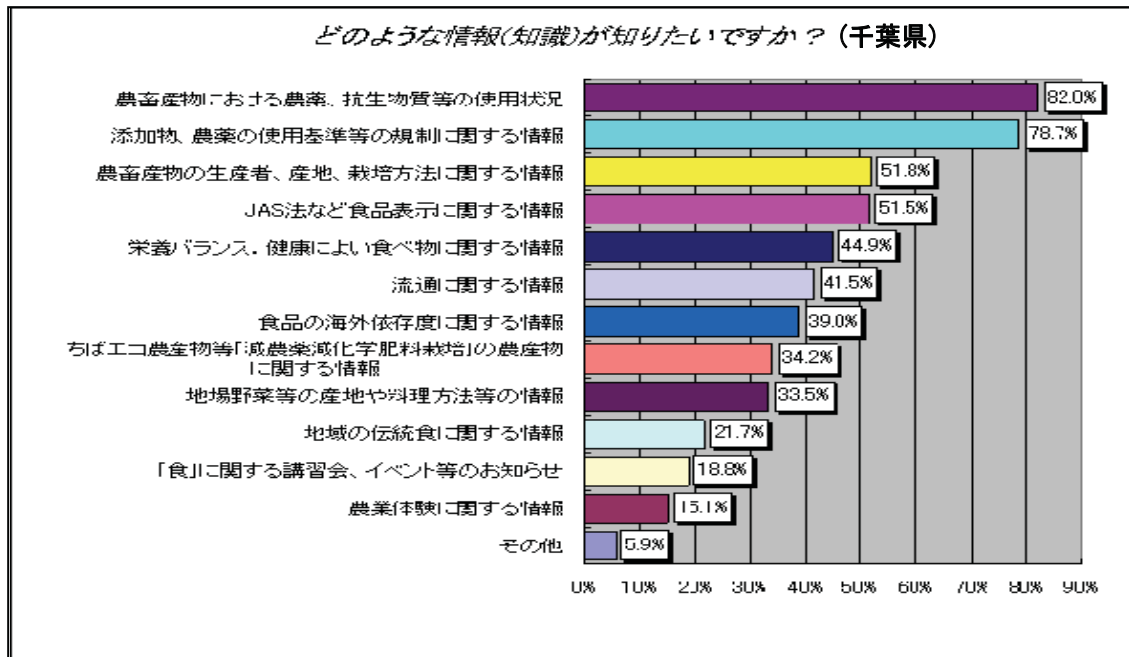
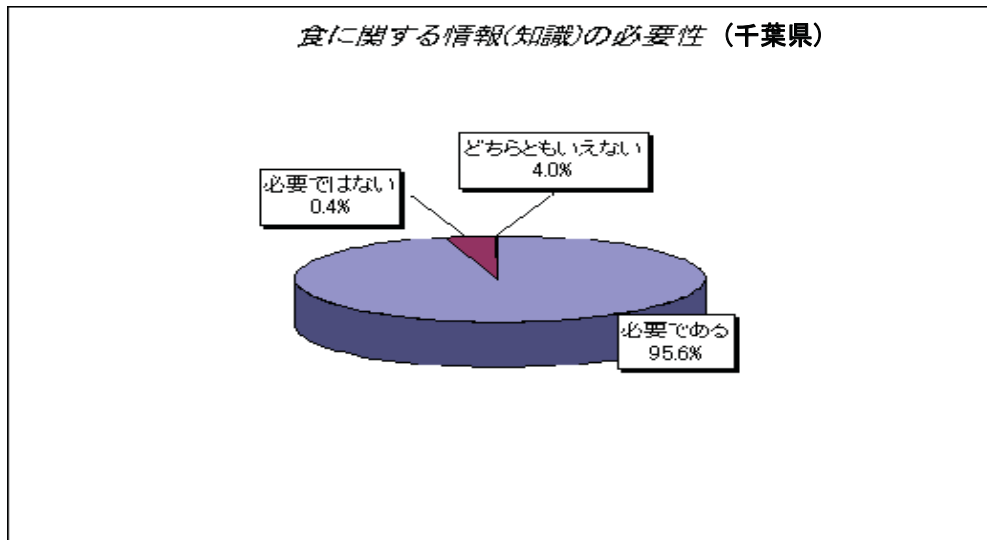
また、食に関する情報の必要性については、約95%の人が必要性を感じており、知りたい情報としては、「農薬の使用状況」、「添加物、農薬の規制の情報」が約8割と高く、次いで、「農畜産物の生産者、産地、栽培方法」、「食品表示に関する情報」が約5割となっています。

図表—65



資料：平成15年度県政モニター調査結果(千葉県)

図表—66



資料：平成15年度県政モニター調査結果(千葉県)

○外食や食品を購入する際に栄養成分の表示を参考にしている人は、女性で6割半ば、男性で約4割となっており、女性の方が高い傾向にあります。

(生活習慣に関するアンケート調査から)

○食品選択時に気をつけることで最も多かったのは「賞味期限」(男性77%、女性89%)で、次いで多いのが「食品添加物」(男性41%、女性54%)でした。いずれの項目も女性の方が気にする割合が高くなっています。

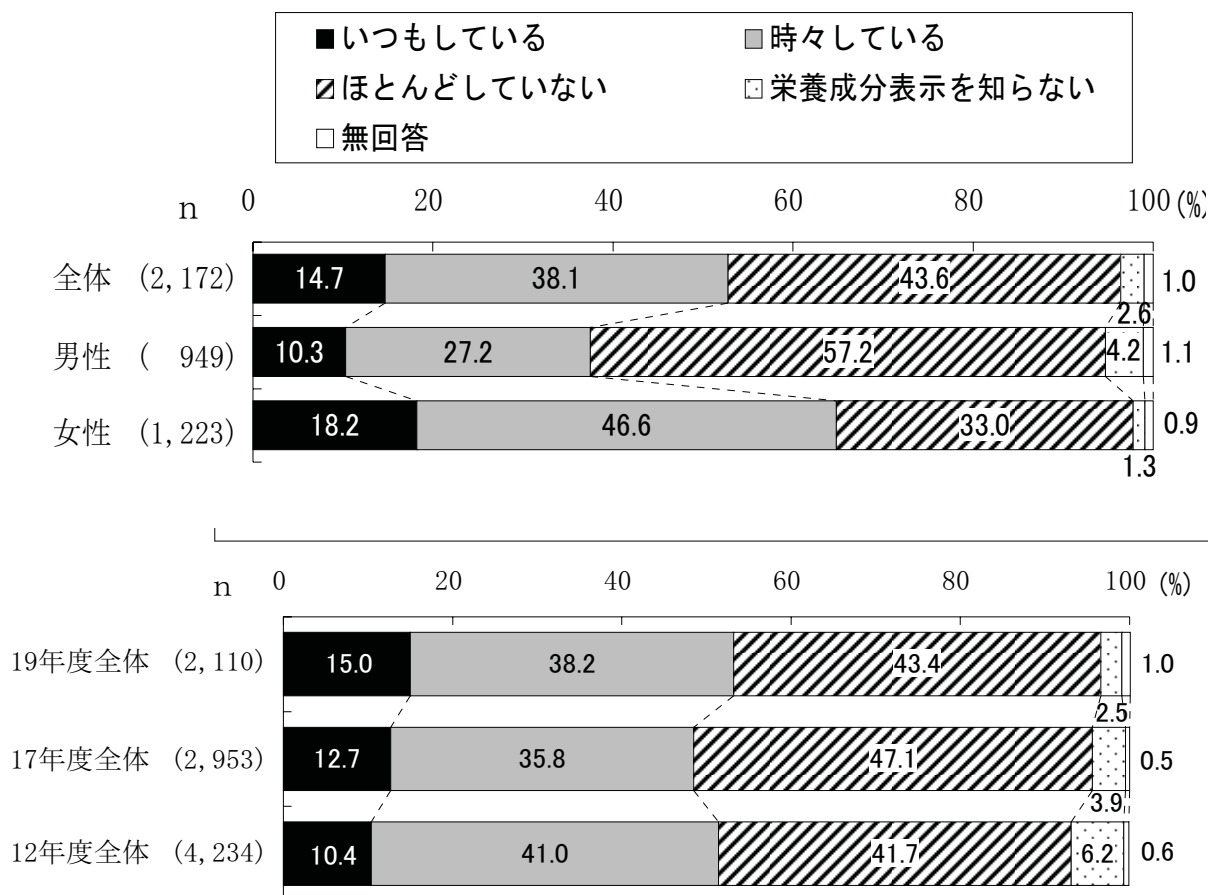
また、「気にしない」人の割合は、20歳未満の男性が約3割と最も高くなっています。

(県民健康基礎調査報告書から)

○身近な飲食店や食品売場、職場(学校)の給食施設・食堂などにおける栄養バランスのとれたメニューの提供状況について、消費者の立場から見ると、まだ提供が十分でないと考えている人が多いことがうかがえます。

(千葉県民健康・栄養調査報告書から)

図表—67 外食や食品を購入する際に栄養成分の表示を参考にしているか(千葉県)



資料：平成19年度生活習慣に関するアンケート調査報告書(千葉県)

図表—68 性・年齢階層別、食品選択時に気をつけること(男性：千葉県)

(%)

年齢 項目	15～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70以上	合計
気にしない	29.4	20.9	13.2	9.1	16.5	18.5	15.0	16.2
添加物	19.6	29.9	38.4	39.6	42.7	48.0	47.2	41.1
賞味期限	64.7	73.1	83.4	86.3	75.6	71.8	75.6	76.6
農薬の使用状況	15.7	14.9	22.5	26.4	31.0	33.6	30.7	27.5
生産地	7.8	16.4	20.0	29.9	35.8	40.6	44.1	31.8
遺伝子組換え	11.8	16.4	23.8	25.4	21.9	20.1	21.3	21.2
栄養成分表示	15.7	20.9	12.6	14.7	14.0	14.1	16.5	15.0
その他	5.9	6.0	3.3	3.0	1.1	1.3	0.0	2.3
無回答	0.0	0.7	0.0	2.0	2.0	3.7	5.5	2.5

※複数回答のため合計は100になりません

資料：県民健康基礎調査報告書（平成16年9月：千葉県）

図表—69 性・年齢階層別、食品選択時に気をつけること(女性：千葉県)

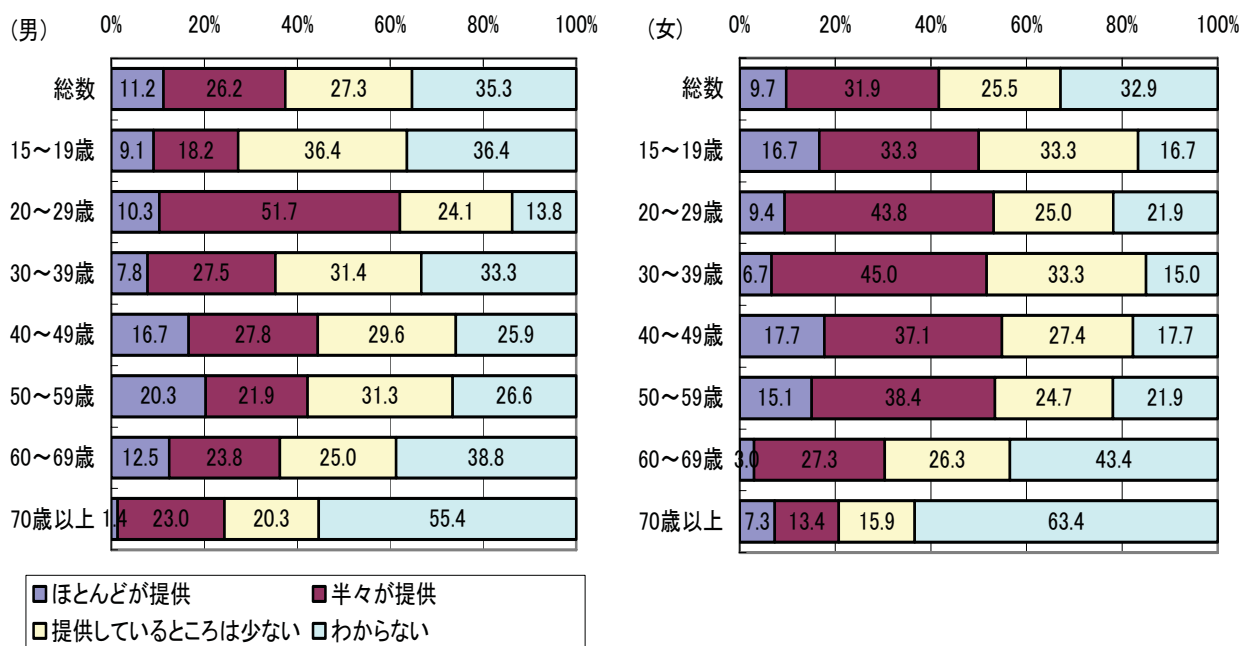
(%)

年齢 項目	15～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70以上	合計
気にしない	9.6	7.6	2.9	3.1	2.4	6.1	6.3	4.6
添加物	21.2	34.8	44.5	59.5	65.8	62.2	54.0	53.8
賞味期限	80.8	86.2	89.4	91.5	90.0	88.8	82.5	88.5
農薬の使用状況	9.6	20.0	27.0	38.4	47.0	50.3	42.9	37.5
生産地	13.5	33.8	42.0	49.7	60.3	61.5	46.0	49.3
遺伝子組換え	11.5	25.7	36.5	43.2	48.2	38.1	28.6	37.6
栄養成分表示	28.8	24.3	23.7	24.1	23.9	20.2	22.2	23.3
その他	7.7	3.8	4.4	1.0	1.8	1.3	0.8	2.4
無回答	3.8	0.0	1.8	1.0	2.1	1.6	9.5	2.1

※複数回答のため合計は100になりません

資料：県民健康基礎調査報告書（平成16年9月：千葉県）

図表—70 身のまわりでの栄養バランスメニューの提供状況（性・年齢階級別：千葉県）



資料：平成 17 年度千葉県民健康・栄養調査報告



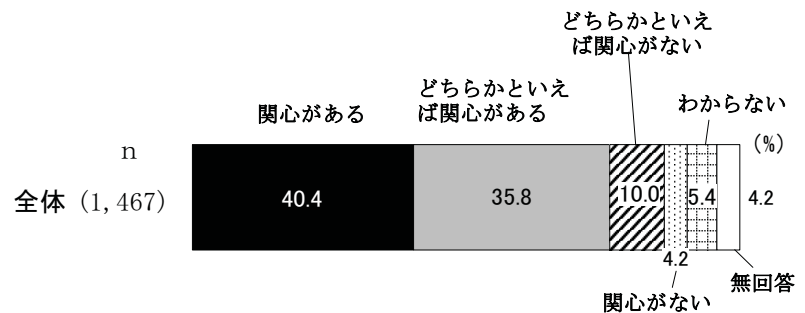
7. 食育への関心と実践度

- 平成 18 年度に「食育」に関する世論調査を実施したところ、食育に関心を持っている人は 7 割台半ばと関心は高いものの、食育に関する活動や行動をしている人は 4 割台半ばにとどまっています。
- 食生活上の指針等を「参考にしていない」あるいは「知らない」が約 6 割に達しています。
- 食品選択や調理の知識があると考えている人は 6 割台半ばでした。

図表—71 平成 18 年度第 32 回県政に関する世論調査結果(千葉県)

(1) 「食育」の関心度

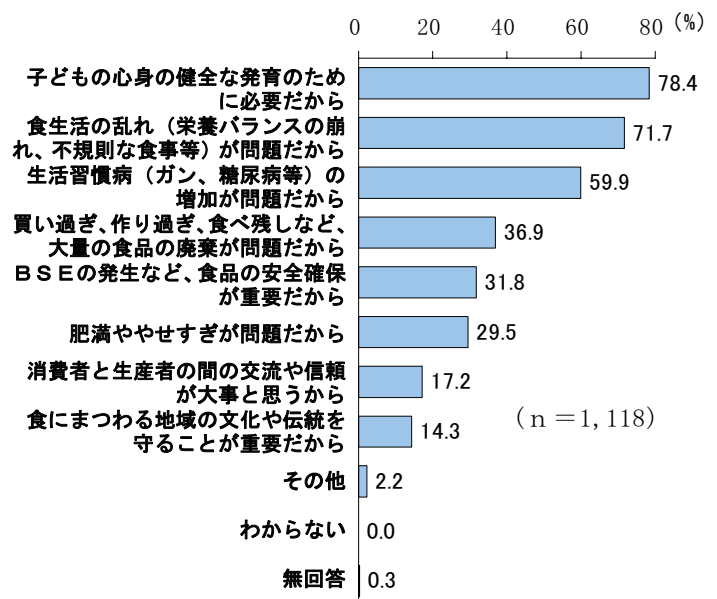
「食育」の関心度を聞いたところ、「関心がある」(40.4%)が4割で最も多く、「どちらかといえば関心がある」(35.8%)を合わせると、『関心をもっている人』(76.2%)は7割台半ばでした。逆に、「どちらかといえば関心がない」(10.0%)と「関心がない」(4.2%)を合わせて、『関心をもっていない人』(14.2%)は1割台半ばでした。



(1-1) 「食育」に関心があると思う理由

食育に関心がある理由をいくつかも選んでもらったところ、「子どもの心身の健全な発育のために必要だから」(78.4%)が約8割で最も高く、次いで、「食生活の乱れが問題だから」(71.7%)が7割を超えています。

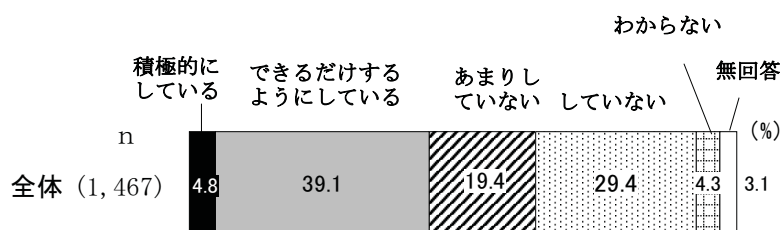
また、「生活習慣病の増加が問題だから」(59.9%)が約6割でした。



(2) 食育に関する活動や行動

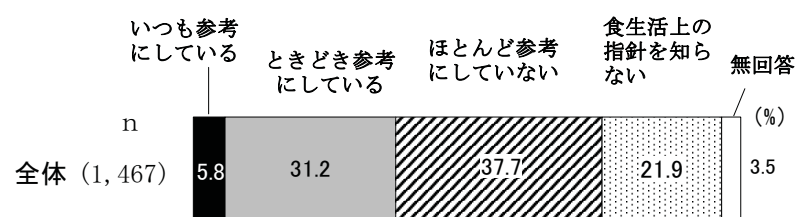
食育に関する活動や行動を聞いたところ、「積極的にしている」(4.8%)は少数ながら、「できるだけするようにしている」(39.1%)が最も多く、これらを合わせると、『している』(43.9%)は4割台半ばでした。

逆に、「あまりしていない」(19.4%)と「していない」(29.4%)を合わせて、『していない』(48.8%)は約5割でした。



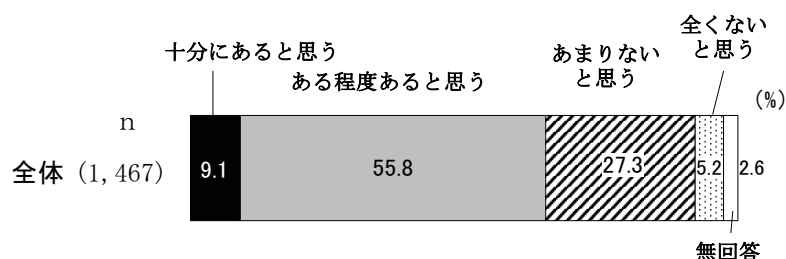
(3) 食生活上の指針等を参考にする程度

食生活上の指針等を参考にする程度を聞いたところ、「いつも参考にしている」(5.8%)は少数ながら、「ときどき参考にしている」(31.2%)が3割を超え、これらを合わせると『参考にしている』(37.0%)は約4割でした。しかしながら、「ほとんど参考にしていない」(37.7%)も約4割で多く、「食生活上の指針を知らない」(21.9%)との回答も2割を超え、これらを合わせると『参考にしていない』(59.6%)は約6割でした。



(4) 健康に悪影響を与えない食品選択や調理の知識

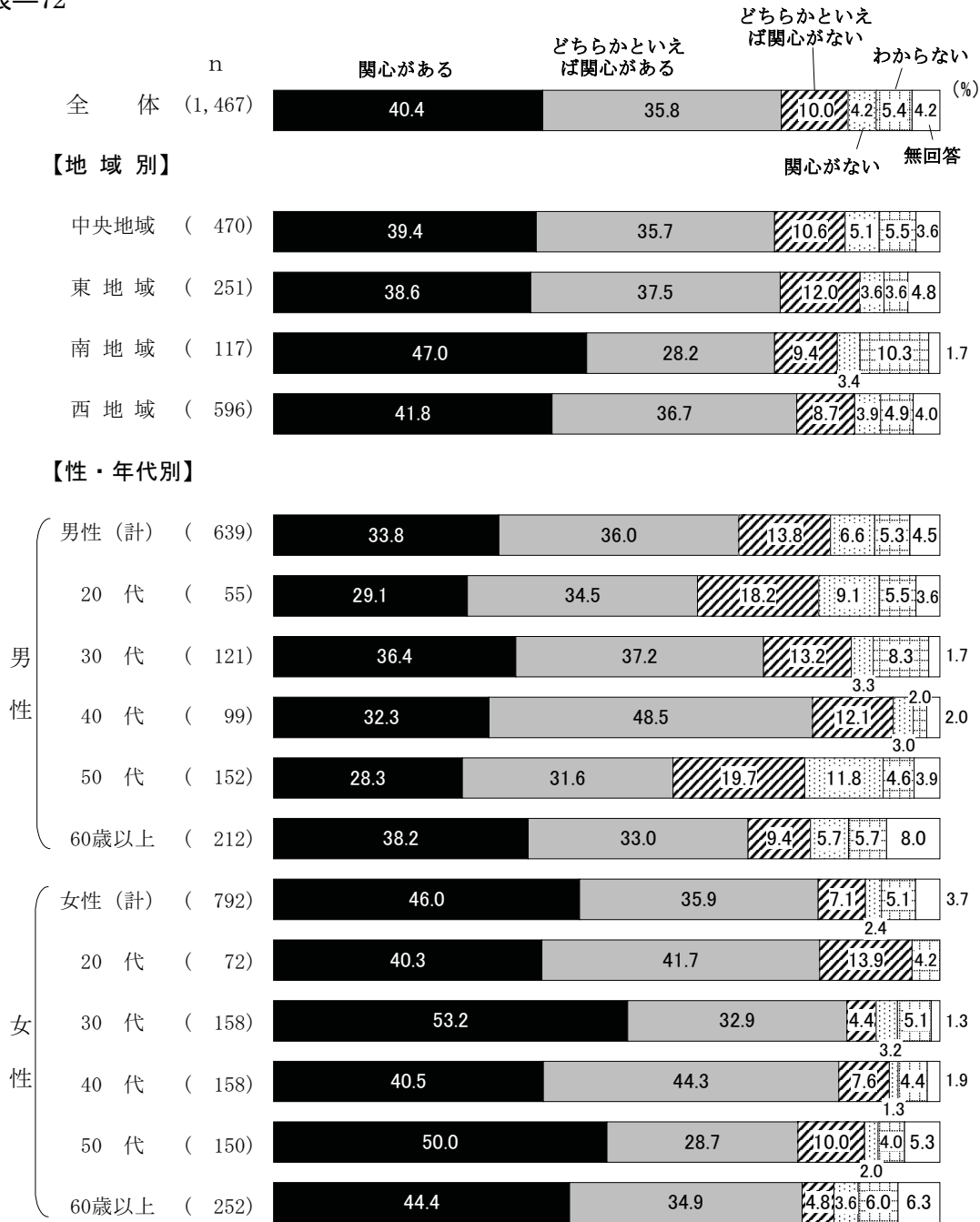
健康に悪影響を与えない食品選択や調理の知識を聞いたところ、「十分にあると思う」(9.1%)は約1割で、「ある程度あると思う」(55.8%)は5割台半ばで最も多くなっています。これらを合わせると、『あると思う』(64.9%)は6割台半ばとなっています。一方、「あまりないと思う」(27.3%)と「全くないと思う」(5.2%)を合わせて、『ないと思う』(32.5%)は3割を超えています。



「食育」の関心度／地域別、性・年代別

関心度は全般的に女性の方が男性よりも高く、特に、「関心がある」は女性の30代(53.2%)と50代(50.0%)で5割以上となっています。『関心をもっている人』としてみた場合、男性では40代(80.8%)で、女性では20~40代及び女性(計)でも8割を超えています。一方、男性(計)では、約7割でした。

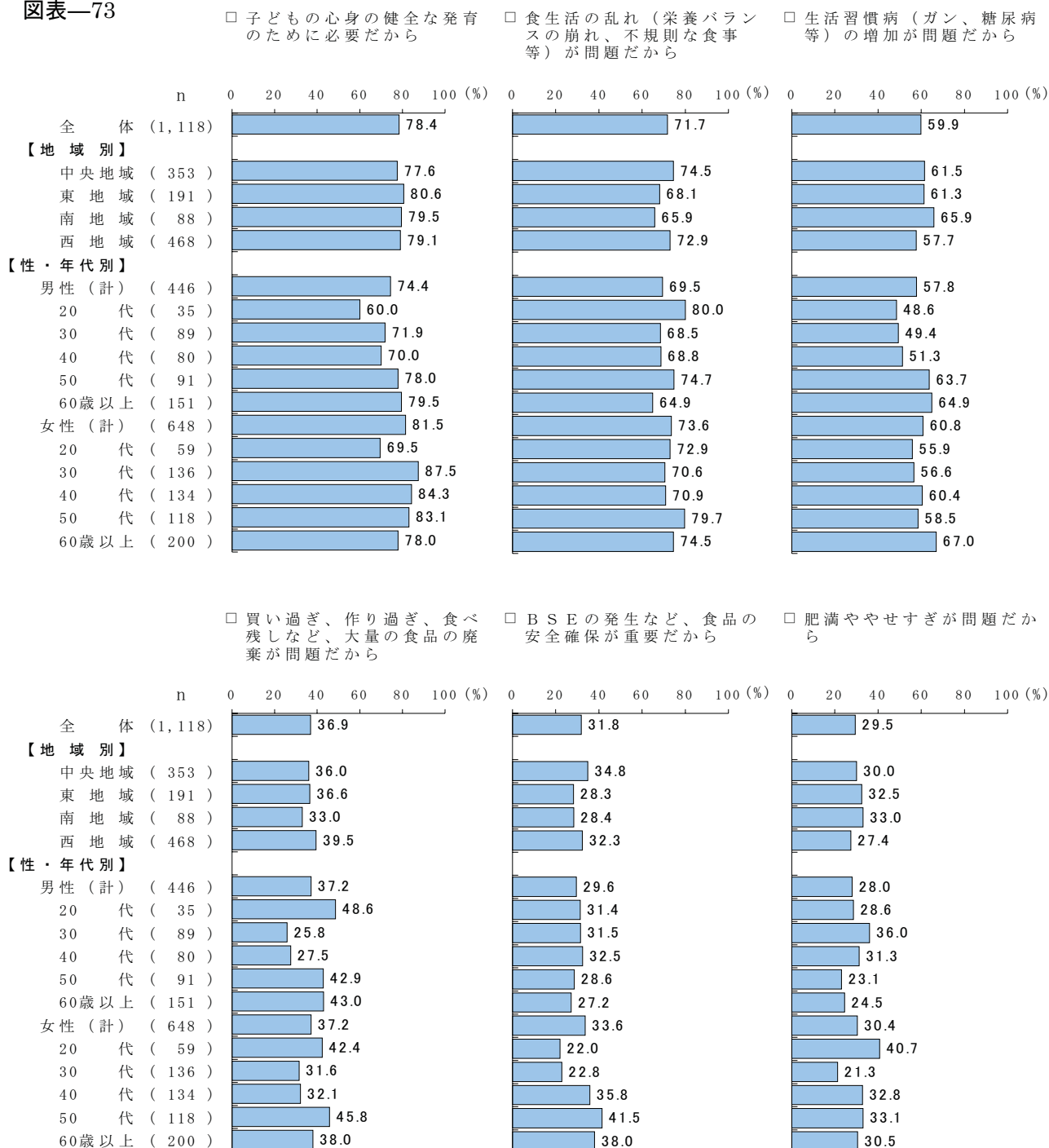
図表—72



「食育」に関心があると思う理由／地域別、性・年代別（上位6項目）

「子どもの心身の健全な発育のために必要だから」は、男女ともに20代で低く、男性ではおおむね年代が上がるほど増加する一方で、女性では30代(87.5%)をピークにそれ以降年代が上がるほど減少しています。「食生活の乱れが問題だから」は、男性の20代(80.0%)と女性の50代(79.7%)で8割前後となっています。また、「生活習慣病の増加が問題だから」は、男性の50歳以上と女性の60歳以上(67.0%)で6割台半ばです。このほか、「買い過ぎ、作り過ぎ、食べ残し等、大量の食品の廃棄が問題だから」は、男性の20代(48.6%)が約5割、女性の50代(45.8%)が4割台半ばで、「BSEの発生など、食品の安全確保が重要だから」は、女性の40歳以上が3割台半ばで、「肥満ややせすぎが問題だから」は、男性では30代(36.0%)が最も高く、女性では20代(40.7%)で4割となっています。

図表—73



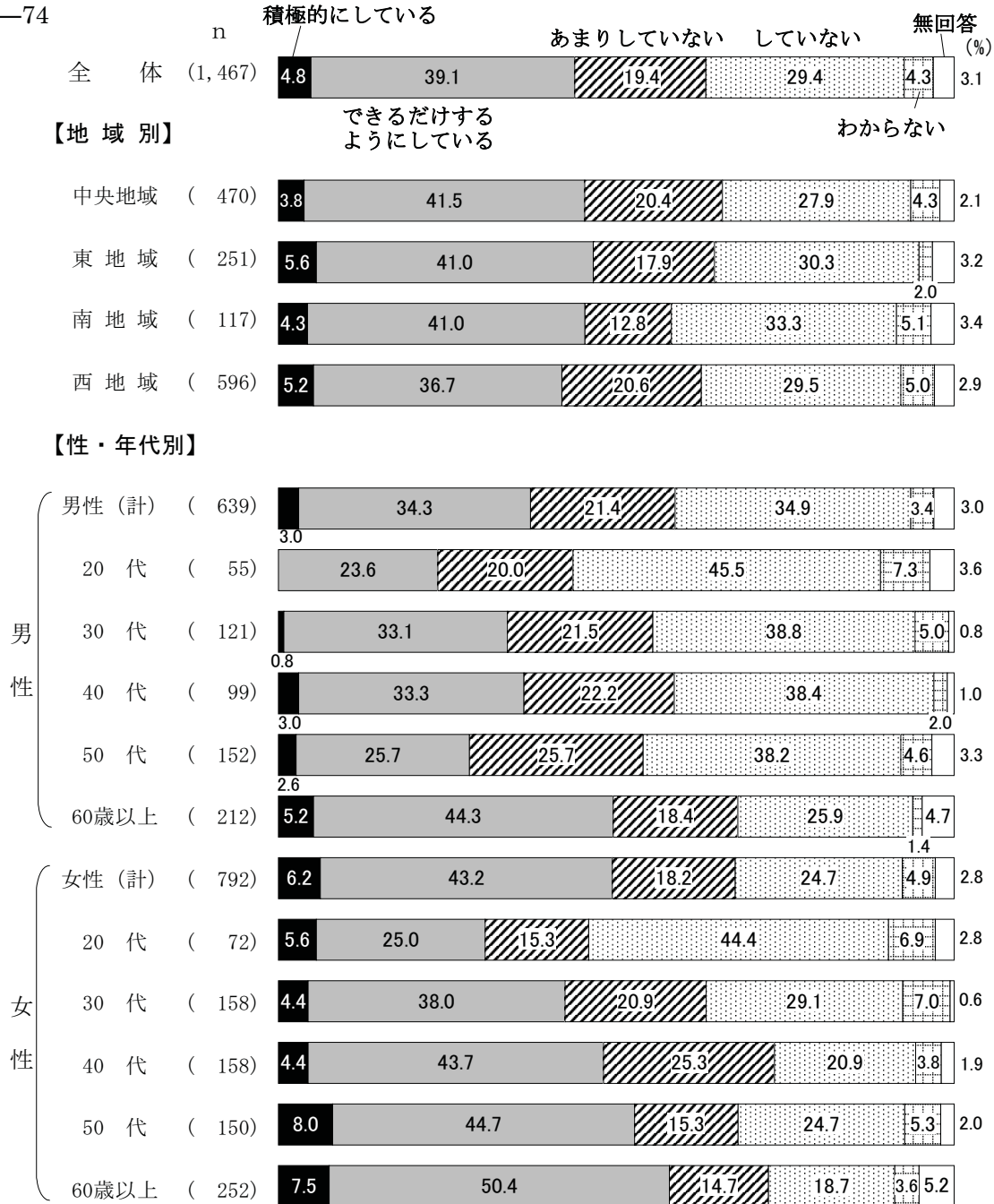
食育に関する活動や行動／地域別、性・年代別

『している』は、男性（計）（37.3%）が約4割に対して、女性（計）（49.4%）では約5割で性別による大きな違いがみられました。

男性では、『している』は、20代（23.6%）が最も低く、60歳以上（49.5%）が約5割で最も高くなっています。逆に、『していない』が20～50代で6割を超えています。

一方、女性では、『している』は、20代（30.6%）が最も低く、年代が上がるほど増加し、50歳以上で5割を超えています。『していない』は20代（59.7%）で約6割でした。

図表—74



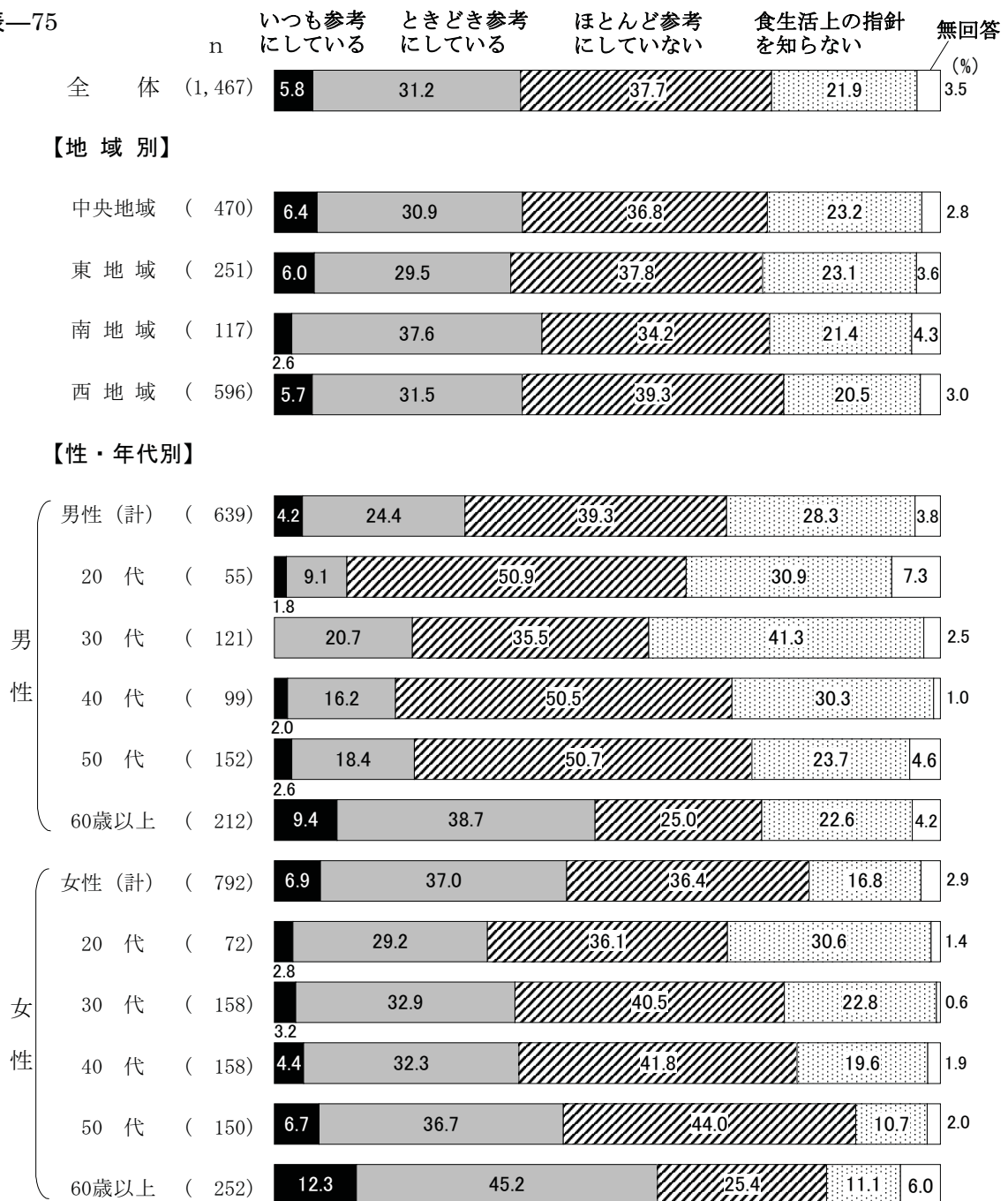
食生活上の指針等を参考にする程度／地域別、性・年代別

『参考にしている』は、男性（計）（28.6%）が約3割に対して、女性（計）（43.9%）では4割台半ばと性別による大きな違いがみられました。また、「食生活上の指針を知らない」は、男性（計）（28.3%）が約3割に対して、女性（計）（16.8%）では1割台半ばと大きな違いがみられました。

男性では、『参考にしている』は20代（10.9%）で1割、30～50代で2割前後と低くなっていますが、60歳以上（48.1%）では約5割となっています。「ほとんど参考にしていない」は、20代（50.9%）と40～50代で5割、また、「食生活上の指針を知らない」は30代（41.3%）で4割を超えています。

一方、女性では、『参考にしている』は年代が上がるほど増加して60歳以上（57.5%）で約6割となっています。「ほとんど参考にしていない」が30～50代で4割台となっている一方で、20代は「食生活上の指針を知らない」（30.6%）が3割となっています。

図表—75

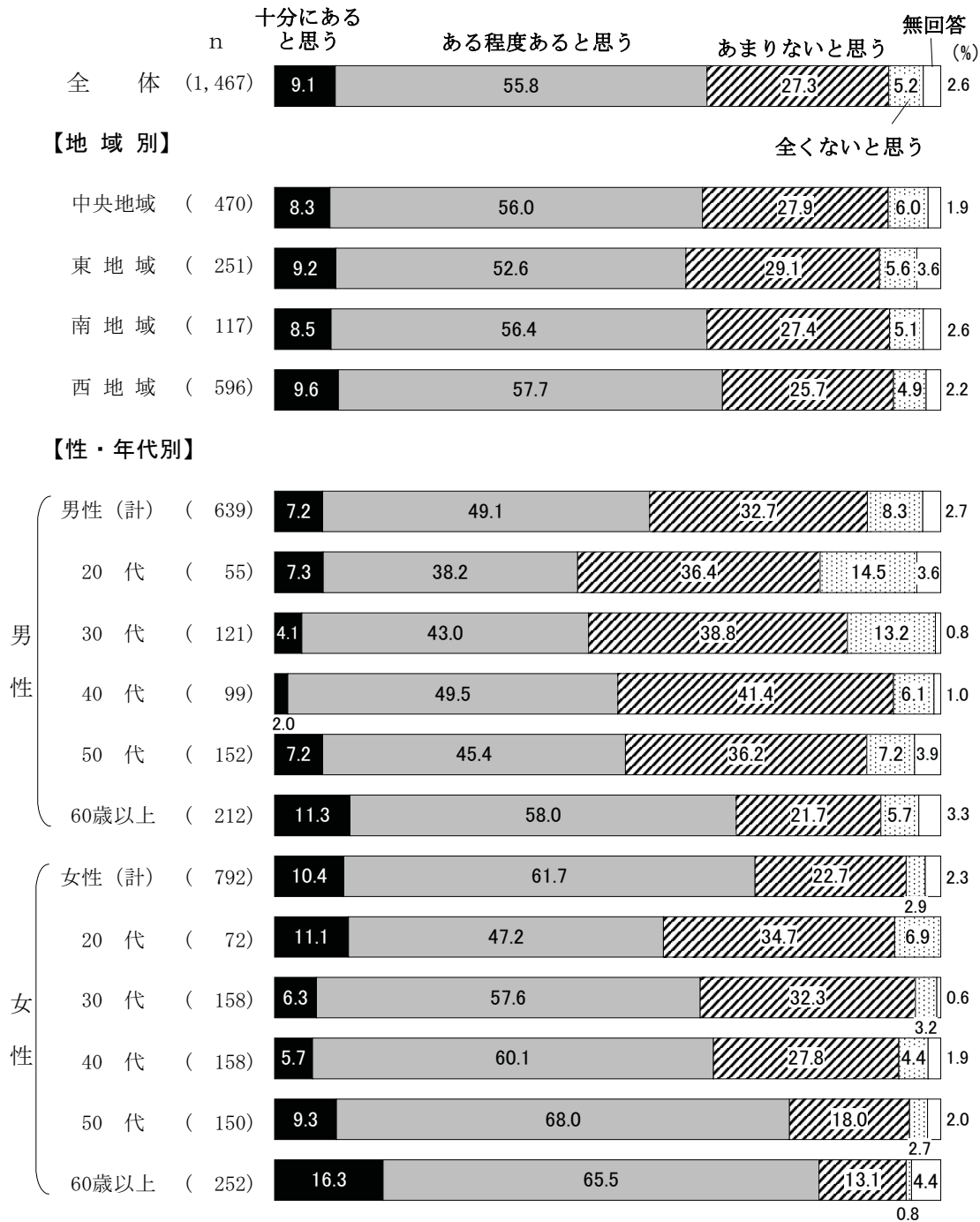


健康に悪影響を与えない食品選択や調理の知識／地域別、性・年代別

『あると思う』は、男性（計）（56.3%）が5割半ばに対して、女性（計）（72.1%）では7割を超え性別による大きな違いがみられました。

『あると思う』は、男女ともに年代が上がるほど増加しており、男性の60歳以上（69.3%）で約7割、女性の50代（77.3%）と女性の60歳以上（81.8%）で8割前後となっています。

図表—76

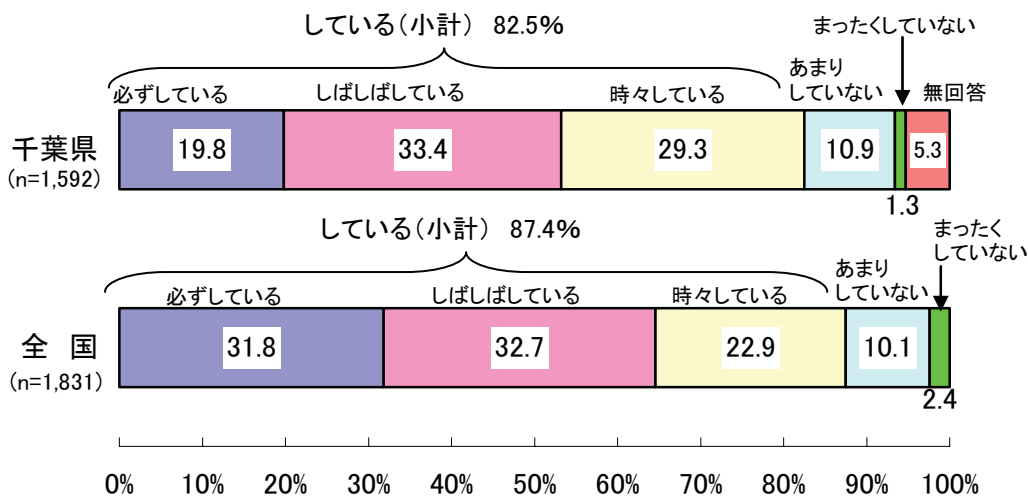


○平成19年度に実施した県政に関する世論調査では、食育の実践について、「栄養バランスに配慮」している人が8割を超えています。また、7割を超える人が「食を通じたコミュニケーション」や「規則正しい食生活」、「食事に関する作法」等を心がけています。「自ら料理に取り組んでいる」という人も7割います。

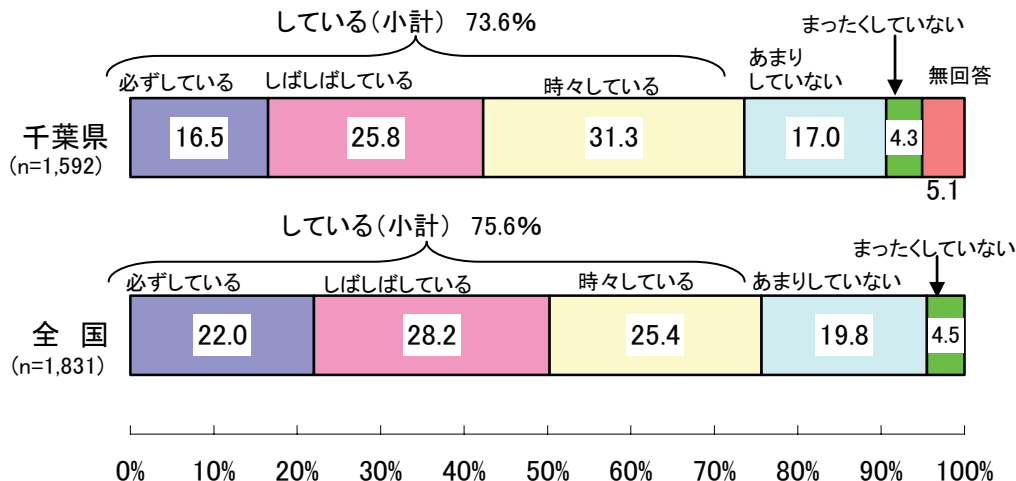
図表—77 家庭における食育の実践

※千葉県は「無回答」を含んでいます。

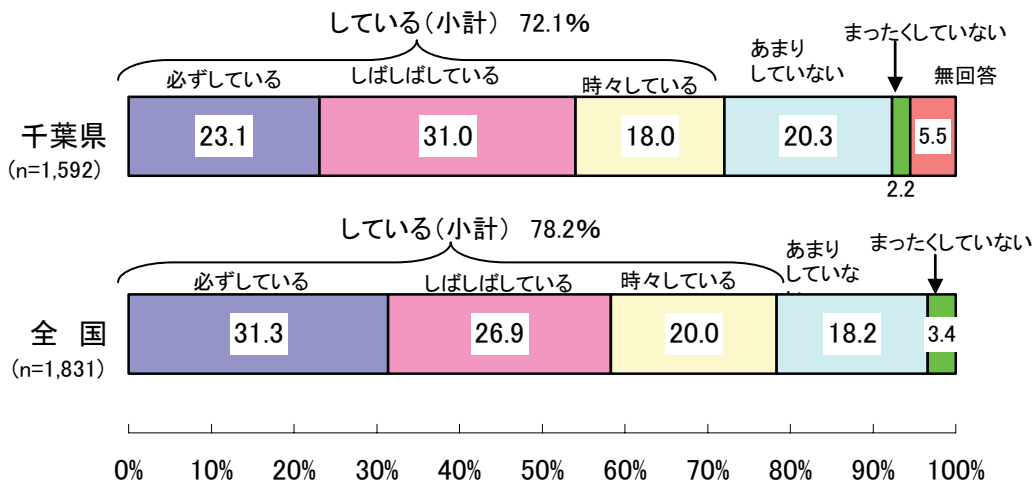
①栄養バランスの優れた「日本型食生活」の実践、野菜摂取量を増やす、油の多いものを控えるなど、栄養バランスに気をつけている



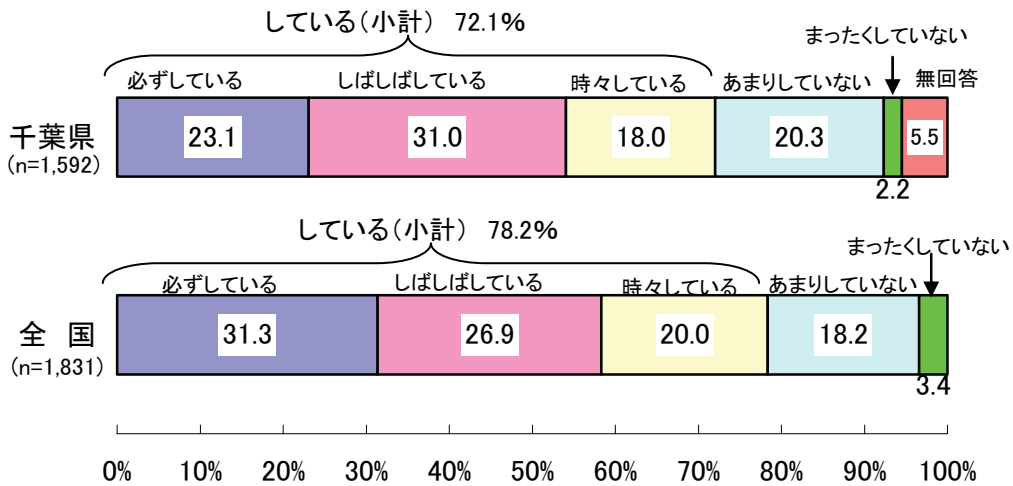
②家族や友人と食卓を囲み、食事を楽しむ機会を増やすなど、食を通じたコミュニケーションを充実させている



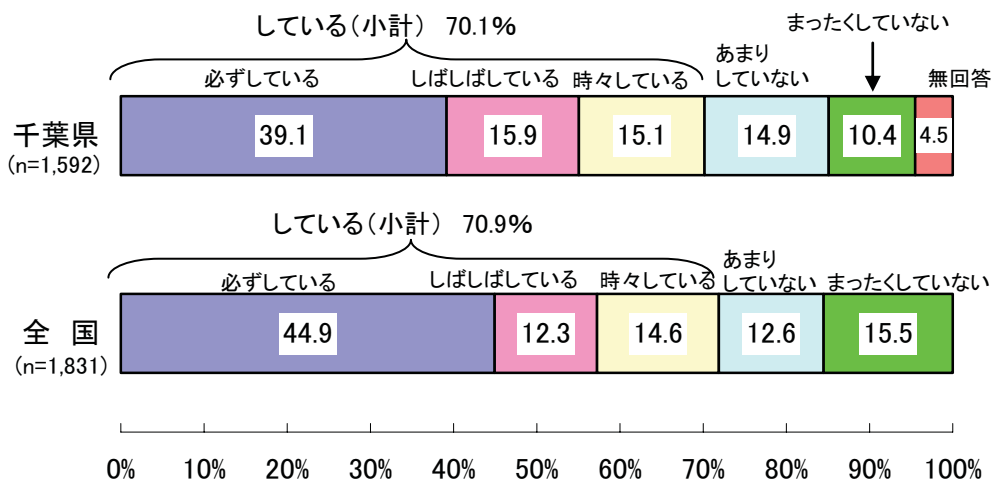
③毎日朝食を摂るなど規則正しい食生活に努めている



④食事に関する作法に気をつけている



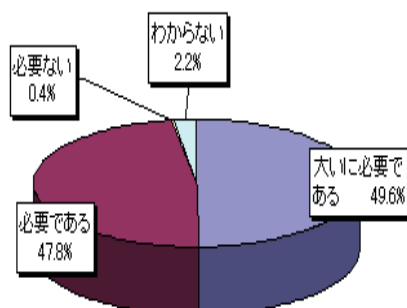
⑤自らも料理に取り組んでいる



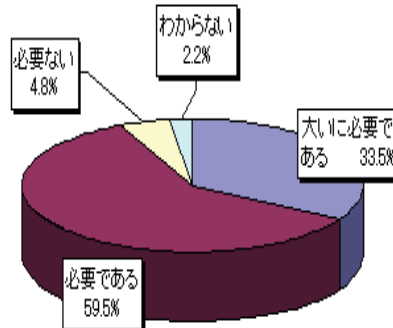
資料：平成19年度第35回県政に関する世論調査結果(千葉県) 食育に関する意識調査報告書(平成19年3月：内閣府) をもとに作成

- 平成 15 年度に実施した県政モニター調査では、食育の必要性については、9 割を超える人が必要と考えています。特に子どもへの食育の必要性では、約 5 割の人が「大いに必要である」と考えています。
- 食育を推進する機関としては、学校が 6 割を超えており、次いで、市町村が約 6 割と高く、地域のボランティアが 3 割弱となっています。地域において、学校や市町村は、食育の推進を中心的に担う機関として期待されています。

図表—78 子どもに対する食育の必要性 (千葉県)

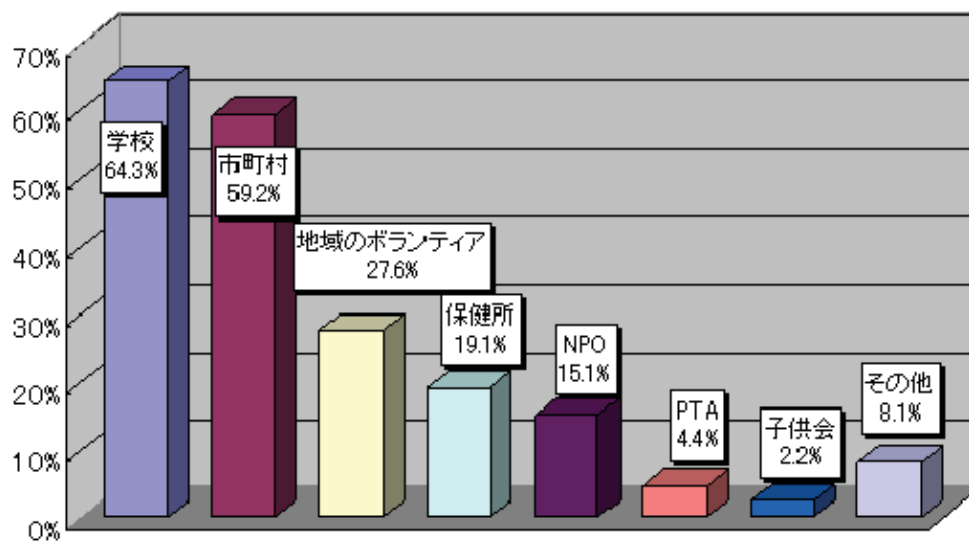


図表—79 大人に対する食育の必要性 (千葉県)



図表—80

食育推進を行う機関 (千葉県)

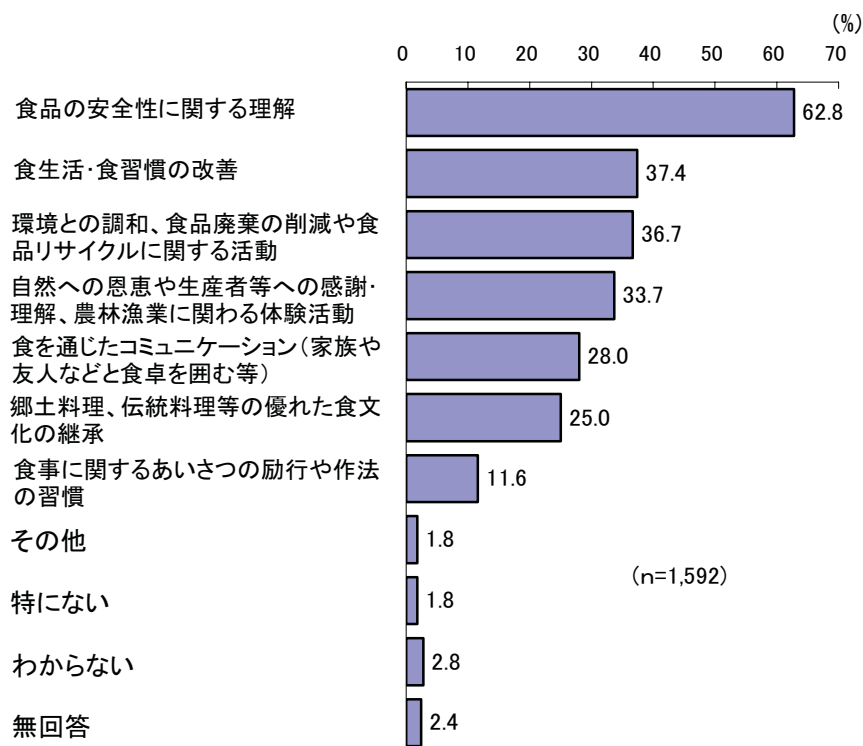


資料：平成 15 年度県政モニター調査結果 (千葉県)

8. 食育を支援する人材や場など

- 平成 19 年度に実施した県政に関する世論調査結果では、県民運動としての取り組みで重要なものとして、「食品の安全性に関する理解」と回答した人が 6 割を超え最も多く、食生活改善、環境への配慮、体験活動がそれに続いています。
- 内閣府が実施した意識調査結果と比べると、食育の推進にかかわるボランティア活動に「参加してみたい」と思っている人の割合は全国では 2 割台半ばであるのに対し、千葉県では 4 割で、高い関心を示しています。その活動内容は「生活習慣病予防などのための料理教室」が最も高く約 6 割で、「食品の安全や表示に関する活動」「郷土料理、伝統料理等の食文化継承活動」「食生活の改善に関する活動」がそれに続いています。
- ちばの食育を学校や地域でサポートする「ちば食育ボランティア」は、募集 3 期目をむかえ、登録人数は 5,000 人を超えており、地域における食育活動を実践しています。
- 自ら食育の推進活動を行ったり、県内の食育活動を支援することで、食育活動の推進に協力する千葉県独自の制度である「ちば食育サポート企業」は募集 3 期目をむかえ、平成 20 年 3 月時点の登録企業数は 122 社となっています。
- 県民一人ひとりの健康や生活状況に応じた健康づくりをサポートするために、メニューの栄養表示や健康に配慮したメニューを提供する「健康ちば協力店」の登録数は 850 店を超えており、地域でのよりよい食環境づくりが期待されます。

図表—81 食育の県民運動としての取り組みで重要なこと(千葉県)

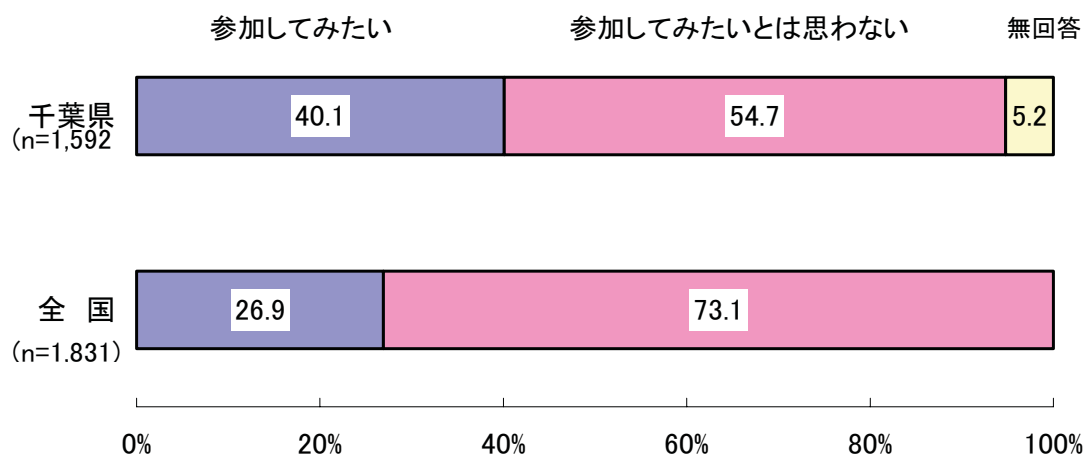


資料：平成 19 年度第 3 5 回県政に関する世論調査の結果(千葉県)

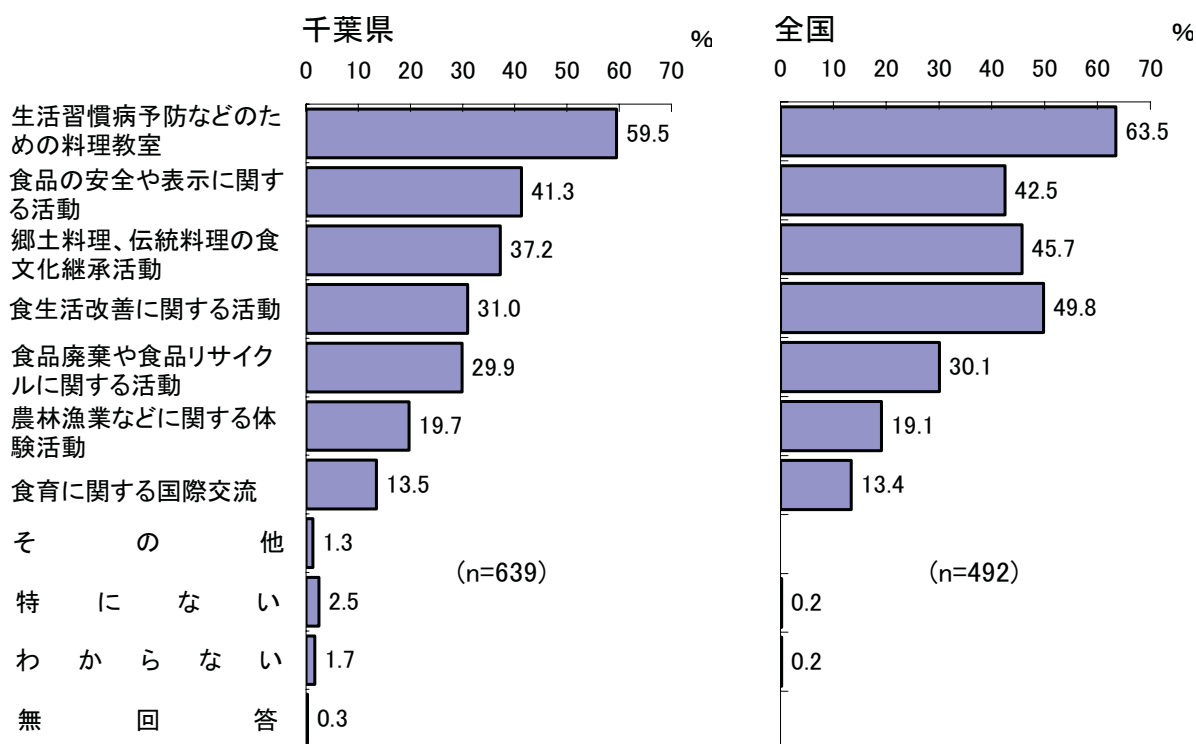
図表—82 食育推進にかかわるボランティア活動への参加に関する調査

※千葉県のデータは「無回答」を含んでいます。

①食育の推進にかかわるボランティア活動への参加意欲



②参加してみたい食育に関するボランティア活動



資料：平成19年度第35回県政に関する世論調査結果(千葉県)
食育に関する意識調査報告書(平成19年3月：内閣府)
をもとに作成

図表—83 「ちば食育ボランティア」の登録人数の推移

	登 録 期 間	登録人数
第1期	平成16年1月1日～平成17年3月31日	2,645名
第2期	平成17年4月1日～平成19年3月31日	3,803名
第3期	平成19年4月1日～平成21年3月31日	5,081名

図表—84 「ちば食育ボランティア」の地域別登録人数(第3期)

地域名	登録人数	地域名	登録人数
千葉地域	1,310	山武地域	842
東葛飾地域	465	長生地域	199
印旛地域	188	夷隅地域	713
香取地域	65	安房地域	611
海匝地域	390	君津地域	298

図表—85 「ちば食育ボランティア」分野別登録状況(第3期)

登録分野	食生活 改善	千 産 千 消	食品流 通加工	農林水 産 業	農林水 産 物 加 工	食料農 林水産 業情勢	料 理	その他	合 計
個人登録者	110	22	8	92	23	20	137	24	436
団体登録者	2,200	454	19	487	107	77	2,457	82	5,883
団体数	(27)	(11)	(4)	(19)	(6)	(3)	(40)	(5)	(115)
合計人数	2,310	476	27	579	130	97	2,594	106	6,319

※登録分野については、複数の分野への登録があるために登録者数の合計とは一致しない。

図表—86 「ちば食育サポート企業」の登録企業数の推移

	登 録 期 間	登録企業数
第1期	平成16年2月1日～平成18年3月31日	69社
第2期	平成18年4月1日～平成20年3月31日	101社
第3期	平成20年4月1日～平成22年3月31日	122社

図表—87 健康ちば協力店の登録店舗数

健康ちば協力店の数
851店(平成20年3月31日現在)

